

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/04/1 ～2017/04/30)

1. 勉学の状況

4月に入り、デュッセルドルフ大学の新しいセメスターが始まった。今学期に私が取る授業は以下のとおりである。①Deutschkurs ②Einkommen, Beschäftigung und Preisniveau ③Democracy in the European Union、①は週3回のドイツ語集中コース、②はEUの視点から見たマクロ経済学、③はEUにおける民主主義の現状を通して、今後のヨーロッパ統合に必要な民主主義とは何かを考えていく講義。いずれも個人的には興味深い講義なので、挑戦していこうと思う。

2. 生活の状況

【景品は家一棟、1万ユーロ！？ドイツのマクドナルドでモノポリー試してみた】

飲み屋でビールを飲みながら談笑していると、無性にお腹が空いてくることがある。そんな時は友人達と一緒に鶏肉を炙ってパンで挟んだものか、マクドナルドに行って何か頼むのがお決まりになっている。ある日、マクドナルドに行くと、万国旗のような中刷り広告が吊り下がっているではないか。なんとなく気になったので見てみると、『1名の方に家一棟、当たる！』とか『10名の方に1万ユーロが！』などと書かれていた。1年で日本に帰国するというのに、(家一棟ってええなあ)とすぐに浪漫飛行へ in the sky してしまった私は、表向きはそんなそぶりを見せず、けれども内心は家を貰う気満々で挑戦してみることにした。

今回の景品を貰うためには、「マクドナルドモノポリー」というゲームに参加してクリアする必要がある。対象商品を買うとシールが付いていて、そのシールに書かれている色と番号のエリアを手に入れられる。それを繰り返してゲームを進めていく、という工程のようだ。正直、モノポリーのルールなんて人生で1回聞いたか聞いてないくらいなのでよくわからないのだが、とりあえず、ポテトについていたシールをめくってみた。するとそこには「Jackpot!」の文字が！番号が書かれていたので、後日ネットで申し込んでみると、「おめでとう！」の文字が。(これは幸運の中の幸運なのでは！?)とドキドキしながら下にスクロールすると、「次のステージに進めるよ!」、なんとも明るく絶望的なことを言われたものだ。Jackpot がそうそう当たるとも思えないし、一体いくつのステージをこなせばいいのか不明なので、ここは大人しく諦めておくことにした。「逃げだす」ことは誰にでもできるが、浪漫飛行を続けていると、「資金と時間」という現実が推進力を奪っていつてしまうので、どうか勘弁していただきたい。ちなみに筆者は、「マック」、「マクド」のどちらの略称でも気にしない派である。

【東南欧26泊28日の旅：チューリヒ編外伝～侯爵が続べる、あの国へ～】

スイスフランが使える国、いくつあるか皆さんはご存知だろうか。1つはもちろんスイス、それともう1カ国使える国が実はあるのだ。その名はリヒテンシュタイン公国、公式では世界に3カ国しか存在しない貴族が治める国である。チューリヒから首都のファドゥーツまでは、電車とバスを使って2時間程度、良い機会なので行ってみることにした。

曇り空の昼下がりに、ファドゥーツに到着。まず最初に行くところは観光案内所。ここでは3スイスフラン支払うと、入国を証明する王冠のスタンプを押してくれる。(正直、筆者がリヒテンシュタイン公国に行きたかった理由はパスポートにスタンプを貰いたかっただけ、と言っても過言ではない。)観光案内所ではリヒテンシュタインの国旗とロゴが入った服飾品、絵葉書、記念硬貨などのお土産も売っている。その中でも注目すべきはワイン。リヒテンシュタイン産のワインは他国に輸出を行っていないので、付加価値が非常に高い。今回は長い旅なので、重たいワインの買い物は控えたが、もう一度行く機会があれば是非購入していきたい。

目的を果たしたので市街地を散策してみることにした。そもそもの人口が少なく、時期のせいなのか観光客があまりいなかったのも相まって、山々に囲まれ、品のある灰色の石畳が敷かれた市街地は静寂と落ち着きを人々に与えていた。そんなある意味閑散とした街なのに、高級ブランド店は軒を連ねている。リヒテンシュタインは他国に比べて法人税率が低く、本社を置いてる国際企業が沢山あるので、おそらくお金持ちが沢山住んでいるのだろうから、テナントを出しているのではないだろうか。そんなことを考えながら、ふと上を見上げるとお城の壁らしきものを発見した。そのお城こそリヒテンシュタイン公国を治めるハンス=アダムⅡ世公爵がお住まいのファドゥーツ城である。建国記念日にはお庭が一般公開されるらしいが、今回はそんな素敵な日ではなく、また、寒い中軽い登山をする気は無かったので、今回の訪問は遠慮することにした。しかし城から望む街の眺めはなかなかのもの、という評判なので、時間と体力がある方は行ってみてはいかがでしょうか。

帰りのバスが来るまでの間、切手博物館を見学することにした。リヒテンシュタインは世界で1番美しい切手を発行している国として名高く、国の歳入の1割は切手の売り上げ、という恐ろしい国である。切手博物館では、切手の歴史や作り方、過去の型番を公開したりなどしている。土産物も当然切手であり、過去数十年分(確か100年近くあったはず…)の各年の切手も売っていた。古ければ古いほど高い、という訳ではなく、年ごとにまちまちであったのが興味深かった。切手博物館を訪れたら、自分の生まれ年の切手をお土産にする、というのも面白いだろう。

ここまでいくつか紹介してきたが、リヒテンシュタイン公国は規模としては小さいながらも、自国のブランドを巧みに活かして遅くもあり続ける国と言えよう。興味本位の方も、法人税削減の為に会社の本籍地を置きたい方も是非訪れてみてはいかがでしょうか。

【東南欧26泊28日の旅:チューリヒ編最終話～実録ドキュメント、スイス税関水際の攻防～】

前々話で時計を購入した筆者(詳細は3月分報告書をチェック!)はその翌日、タックスフリーの申請をする為に友人とチューリヒ空港を訪れた。途中、知り合いに勧められたVictorinoxのマルチツールを免税店で買うなど、寄り道をしながら税関に到着。

筆者たち「タックスフリーの申請をしたいのですが。」(必要書類と時計・日本国のパスポートを提示)

税関職員(以下職員)「日本に帰るのかい？」

筆者たち「いや、次はミラノに行くよ。」

職員「……………君たちシェンゲン協定の日数をオーバーしてるけど、滞在許可取ってるのかな？」
さあ、戦いの始まりだ。友人は滞在許可のカードを持っているのでなんの問題ないが、私は公的書類があるとはいえ、はっきり示せるカードを持っている訳ではない。

筆者たち「取ってるよ。」(友人はカードを、私は書類を差し出す)

職員「……………これは本当に滞在許可が降りているのかい？」(書類を手にして疑ぐり顔)

筆者「ここを見て、ちゃんと有効期間が書いてあるでしょう？」

職員「……………確認するから待ってて。」

それからどこかへ電話をする職員、我々はただ良い反応を祈るばかり…。

待つこと20分、ネイビーの制服を着た男女のペアがやって来た。腰には拳銃、背中には“POLIZEI”の文字。そう、国家の治安を維持する組織、警察がやってきたのだ！(いよいよ強制送還が現実にかかるのか)などという筆者の怯えをよそに、そこから小1時間ほど職員と話し合ったり、提示した書類を写真に収めたりした後、警官が我々に話しかけてきた。

警官「君たちはどこから来たの？」

筆者たち「デュッセルドルフです。留学でデュッセルドルフ大学に來ています。学生証があるから証明できますけど見ますか？」

警官「見せて」

提出してからは、またしばらく待たされることになった。何十分経っただろうか、警官が近づいてきたので、こちらから直球で聞いてみることにした。

筆者「何か問題があるんですか？」(唾を飲みながら訊く)

警官「いや、申請は大丈夫だよ。許可しよう。」

筆者たち「(良かった…)」

警官「ただ……………」

筆者「!!!」

警官「次はミラノに行くんだらう？もしそこで警察にパスポートをチェックされたら捕まって日本に送り返されるかもしれないよ。」

この時私は何も感じず、ただ顔面通りに受け止めたただけだったが、友人が後に言った言葉は今でもよく覚えている。「スイス警察なのに、旅行者がイタリアで捕まる可能性を考慮してくれるなんてすごく優しいね。」

結局タックスフリーの申請は、時間こそ2時間かかったものの無事に終わった。そしてチューリヒから移動する日、出発を待つミラノ行き特急列車の狭い座席に腰掛けて、私は滞在した5日間を振り返っていた。外出する気が失せる寒さ、美味しい食事、時計選びのひとつ、税関でのせめぎ合い。いざ離れるとなると、全てが素晴らしい思い出となって満足感が行き渡る。(次

はどんな体験が待っているのだろうか)、揺れ動いた列車とともに、私の気持ちも次へと加速していく…。

[次回予告]…ドイツ語はもちろん、英語も使える人が少ない国で戸惑いを隠せない筆者たち。そんな弱者の匂いを嗅ぎつけて、優しさを売り物にする“奴ら”がすり寄ってくる。真を見抜く力が試されるイタリアに果敢に挑む1週間！^{ネヒステマール}Nächste Mal、【東南欧26泊28日の旅：ミラノ前編～鳩を操りし者～】

次回は【あのナイトミュージアムは実在した！？春の夜に“Nacht der Museen”行ってみた】、【東南欧26泊28日の旅：ミラノ前編～鳩を操りし者～】について書いていこうかと思えます。